

8. 府中学園

広島県 府中市立府中小学校・府中中学校



校舎外観

背景

府中市では、平成15年度に市内全域で小中一貫教育を導入することを決定。試行的な期間を経て、全国に先駆けて平成20年度から市内全小・中学校において小中一貫教育を本格実施した。府中小学校・府中中学校（府中学園）は、市内初の施設一体型校舎として、市街地中心部にあった中学校敷地とそれに隣接した工場跡地に新設され、平成20年度に開校した。

学校概要

学校規模	[小]普通:18学級(612人) 特別支援:2学級(14人) [中]普通:12学級(379人) 特別支援:2学級(3人)
学年段階の区切り	6-3
開校年	平成20年(2008年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
校地面積	48,415㎡
延床面積	14,537㎡
用途地域	第一種住居地域 準工業地域

教育上の特色

学習指導要領に基づく9年間を見通した計画的、継続的な教科指導や生徒指導等に取り組んでいる。

中学校教員が小学校で乗り入れ授業を行ったり、学校行事を通じた異学年交流を実施したりすることで、児童生徒の交流機会を創出すると共に、教職員が9年間を通して子供に関わることで、中1ギャップの解消や学力の向上を目指している。

学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校を兼務している。乗り入れ授業や道徳教育の推進を担当する教諭に対して兼務発令がされている。学校事務は共同実施している。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

	学 年									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
学年段階の区切り	小学部						中学部			
授業方法	学級担任制						教科担任制			
運営方式	特別教室型						教科教室型			
授業時間	45分						50分			
校長	校長1人									
副校長・教頭	小学校教頭1人						中学校教頭1人			
部活動	なし						部活動			
PTA	PTA組織を一本化									
ゾーニング	1階	2階					1階	2階		
校長室					1階					
職員室					1階					
保健室					1階					
特別支援学級	1階(小学サポート学級)						1階(中学サポート学級)			
音楽室	なし				1階			1階		
家庭科室			なし			1階(調理室・被服室)				
図書室						2階				
ランチルーム					なし					
昇降口					1階			2階		
体育館					小アリーナ 小アリーナ(各儀式・諸行事)・大アリーナ(地域開放)			大アリーナ		
グラウンド	南グラウンド・芝生広場・自然体験						北グラウンド			
プール	屋上									
給食室	1階(給食センター方式)						1階(給食センター方式)			

計画・設計のポイント

1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能
2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保
3. 異学年交流スペースの充実

施設上の特色

- 校舎は6-3の学年段階に合わせて西側の中庭を取り囲む小学部ゾーン、東側の中庭を取り囲む中学部ゾーンとなっている。校舎と体育館（大アリーナ）は交差点を挟んで2階部分の渡り廊下でつながっている。
- 1～2年の教室は学級単位で学習と生活の環境を一体に整備し、3～6年はオープンスペース型とし、学年ごとに教師コーナー、交流ルームが設けられている。7～9年は、生徒自らが学ぶことを重視して教科教室型を採用している。各教科のメディアセンターでは自主的な学習に取り組むことができる。
- 中庭に挟まれた校舎中央部分には、センターホールや図書室等があり、どの学年からも利用しやすく、異学年交流の拠点となっている。

配置図



【凡例】

■ 昇降口

▲ 児童生徒が使用する門

校地計画		従来からの中学校敷地 +新しい敷地			
面積	グラウンド	24,468m ²			
	校舎	小	8,239m ²	中	16,229m ²
		校舎	11,983m ²		
体育館	2,554m ²				
	小	1,036m ²	中	1,518m ²	

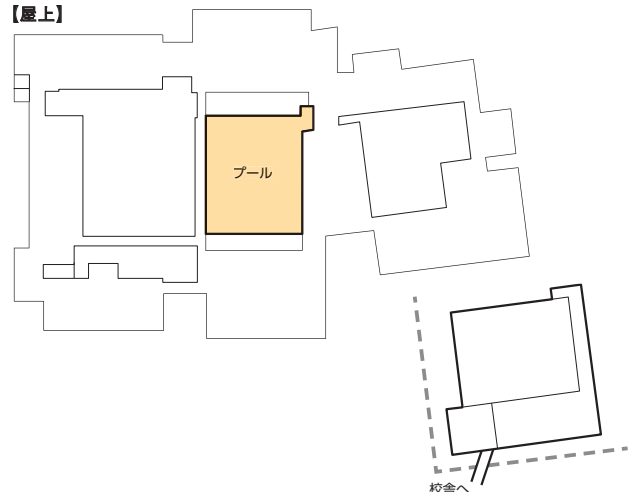
平面図

S=1/2000

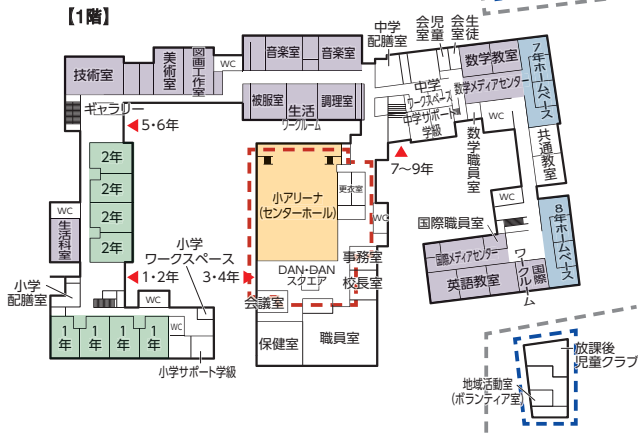
【凡例】



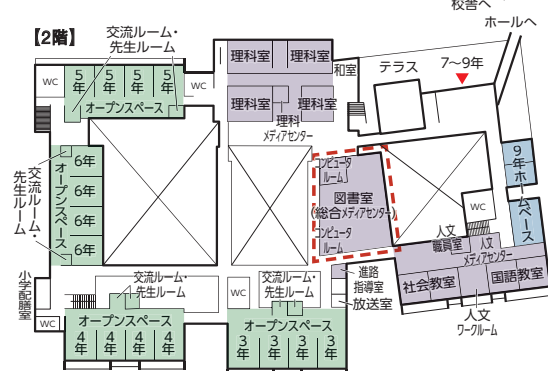
【屋上】



【1階】



【2階】



施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

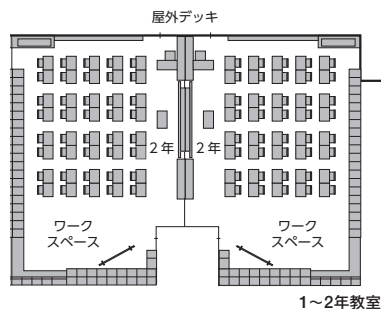
1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能

■ 教室・教室周り

9年間の学校生活における、教育内容や児童生徒の人体寸法の変化に応じ、教室の大きさ、方位や向き、内装仕上げ、家具の種類や高さまで、進級した充実感を感じられる空間づくりを行っている。

● 小学部：低学年教室

外部の屋外デッキから教室、ワークスペースまで、1つの生活空間で多様な学習環境を整備している。



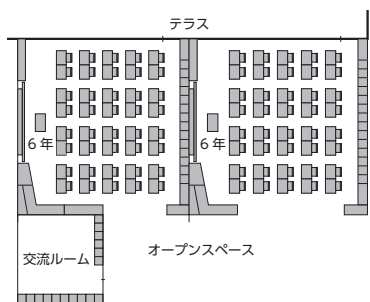
1～2年教室



教室の一面に設けられたワークスペース

● 小学部：高学年教室

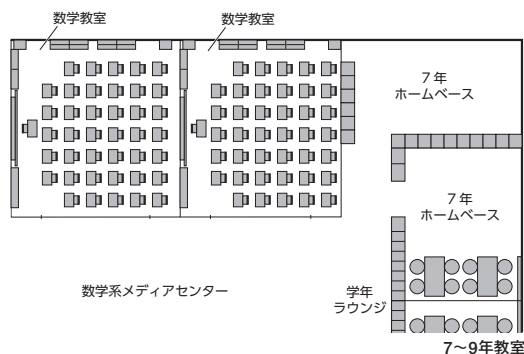
教室前のオープンスペースには、教師コーナーや少人数学習用の部屋等が設けられており、様々な学習や交流が可能となっている。



3～6年教室

● 中学部：教科教室

中学部はクラスの拠点となるホームベースや教科教室のほか、各教科のメディアスペースや教科職員室を設け、学習の深度に応じて様々な情報を得られるようになっている。



7～9年教室

2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保

■ 連絡通路



離れた敷地をつなぐ連絡通路。交差点を安全に渡ることができる。

児童生徒の人体寸法や運動量の差などを考慮し、既存の中学校敷地に中学部のグラウンドを整備し、新たな敷地に小学部のグラウンドと芝生広場を設けている。敷地は公道で分かれているため、校舎と体育館（大アリーナ）を連結する連絡通路を設置し、安全性を確保している。

また約1000人の児童生徒が、徒歩又は自転車で通学するので、学校周辺の混雑緩和と安全確保のため、児童生徒用の昇降口を複数設けたり自転車置き場を校舎から離れた中学部グラウンド側に設けるなどの工夫が見られる。

■ 昇降口



混雑緩和のために昇降口は複数に分けて設けている。

3. 異学年交流スペースの充実

■ 図書室（総合メディアセンター）



図書室は総合メディアセンターとしてコンピュータールームと一体化し、校舎の中心に配置されている。新しく入った本の紹介や、読書週間等のおすすめの本コーナーを、小中それぞれに設置している。

■ 多目的スペース（DAN・DANスクエア）



共用棟の中心部、1・2階吹き抜けに設置された「DAN・DANスクエア」は、階段状の空間とフロアがあり、多目的に活用している。学期毎に行う「DAN・DANライブ」という小中合同のミニコンサートや、中学生から小学生へのプレゼンテーション等のイベント開催、児童生徒の作品展示、委員会からのお知らせ掲示等、小中学生の交流・往来のほか、憩いの場としても利用している。

■ 屋外環境

小学部・中学部ともに回遊性を持たせた校舎として、芝生の中庭を整備している。また、小学校グラウンドに隣接して芝生広場も設けており、休み時間はグラウンドだけでなく、中庭や芝生広場等、より身近な屋外空間で、友人と話したり、鬼ごっこや縄跳び等をする事ができる。



校舎の中心にある芝生の中庭

校長の視点から

府中学園長（府中小学校・府中中学校 校長） いけだ てつや
池田 哲哉

本校は、愛称を府中学園といい、開校7年目を迎え、施設一体型と言う、特徴のある校舎を最大限に活用し、9年間を見据えた教育活動を進めています。そして、小学校の中・高学年は、オープンスペース型の教室で過ごし、中学生になると、教科毎に教室を移動する、教科教室型となっています。このように学年が上がるにつれて風景が変わり、9年間の旅を意識した校舎の造りとなっています。今後は、さらに施設を有効に活用し、充実した教育活動が展開できるよう取り組んでいきたいと考えています。

9. 奈留小中学校

長崎県 五島市立奈留小学校・奈留中学校



校舎外観

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

		学 年									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
運営状況	学年段階の区切り	前期				中期			後期		
	授業方法	学級担任制				教科担任制					
	運営方式	特別教室型									
	授業時間	45分				50分					
	校長	小学校長が中学校長を兼任									
	副校長・教頭	小学校教頭1人				中学校教頭1人					
	部活動	なし				部活動					
	PTA	PTA組織を一本化									
	施設利用状況	ゾーニング	1階				2階				
		校長室					1階				
職員室						1階					
保健室						1階					
特別支援学級						1階(可動間仕切)					
音楽室						2階					
家庭科室		なし				1階					
図書室						1階					
ランチルーム						なし					
昇降口						1階					
体育館						1階(アリーナ)			1階(柔道場)		
グラウンド		グラウンド									
プール	なし(町のプールを利用)										
給食室	1階(給食センター方式)										

背景

奈留小中学校は、人口約2,600人の奈留島唯一の小中学校である。平成10年、文部科学省委嘱中高一貫教育推進校となり、平成20年度から小中高一貫教育を本格実施している。教職員及び生徒の移動を考慮し、県立奈留高等学校校舎と渡り廊下で接続している。

平成22年に奈留中学校の老朽校舎の改築を契機に、奈留小学校が中学校敷地へ移転し、施設一体型校舎を整備した。

学校概要

学校規模	[小]普通:4学級(45人) 特別支援:1学級(1人) [中]普通:3学級(40人)
学年段階の区切り	4-3-2
開校年	平成20年(2008年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上2階
校地面積	40,695㎡
延床面積	5,120㎡
用途地域	指定なし

教育上の特色

「自ら学び 自ら生き方を切り拓き 夢を実現する児童生徒の育成」を学校教育目標とし、小中高一貫教育で「学力の向上」「社会力の育成」を図っている。

特に英語力の向上に力を入れており、小学1年生から英語活動を行っている。全学年の活動・授業に高校のALTが参加し、5~6年生には中学校の英語教員が乗り入れ授業を行っている。

英語以外でも、中学校の理科、保健体育に高校教員が、小学校の音楽に中学校教員が乗り入れ授業を行っている。

学校運営(マネジメント体制)

小学校長が、中学校長を兼務している。乗り入れ授業を行う教諭、養護教諭等、一部の教諭が兼務発令されている。

生徒指導等の校務分掌は小中教職員が共同実施している。小中高の教職員同士で、月一回情報共有のために会議を開催している。

計画・設計のポイント

- 1.異学年交流スペースの充実
- 2.小中一貫教育の取組の高度化に資する共同利用
- 3.学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能
- 4.小中一貫した教育課程に対応した施設環境

施設上の特色

- 中庭・吹抜を囲む回廊型の一体感のある校舎、広いエントランスホールに続く中庭の屋外ステージ、全面引き戸の間仕切りでつながる教室と広めの廊下、屋外デッキ等、開放的で余裕を持たせた空間づくりをしている。校庭に面した校舎西側に普通教室、中庭を挟んで東側に特別教室をまとめて配置している。
- 図書室、家庭教室、音楽教室等の特別教室を小中で共同利用している。中学生用図書の一部を教室に隣接するオープンスペースに配置するなど、生徒の利用を促す工夫をしている。
- 小中一体の職員室は、エントランスホール、グラウンドのどちらにも目が届く校舎西側の1階に配置している。

配置図

S=1/5000



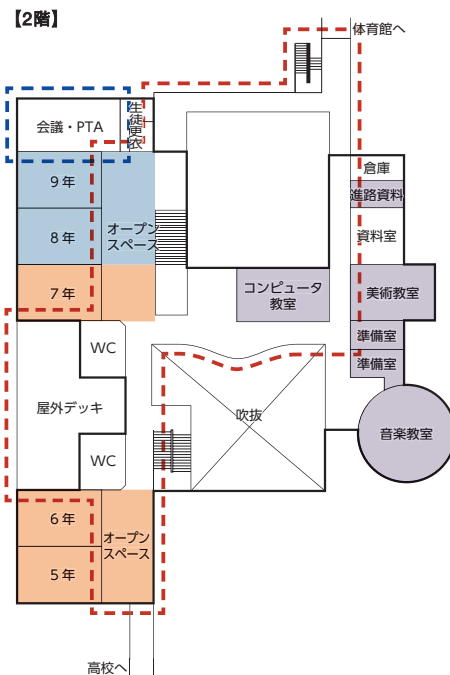
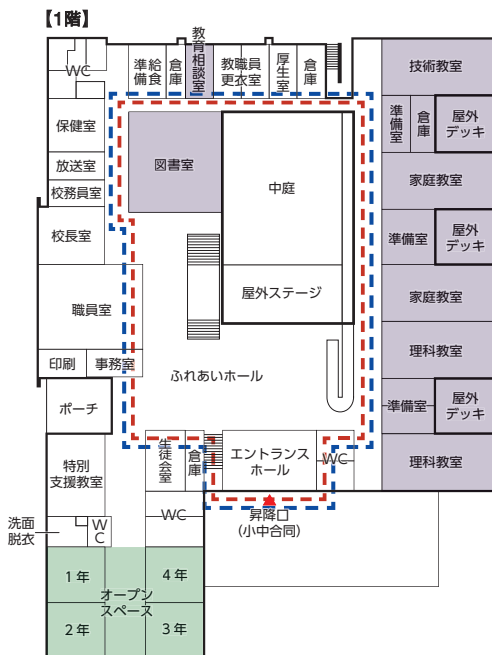
【凡例】

- 昇降口
- ▲ 児童生徒が使用する門

校地計画		従来からの中学校敷地			
面積	グラウンド	19,721m ²			
	校舎	小	1,541m ²	中	18,180m ²
		3,538m ²			
校舎	小	863m ²	中	2,675m ²	
体育館	1,582m ²				

平面図

S=1/800



【凡例】

- 前期
- 中期
- 後期
- 特別教室
- 異学年交流ゾーン
- 地域交流ゾーン
- ▲ 児童生徒が使用する出入口

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

1. 異学年交流スペースの充実

ふれあいホール



多目的スペースである「ふれあいホール」は、図書ボランティアの読み聞かせや小学生の造形遊び、夏休みの作品展や書き初め展等、児童生徒の作品掲示にも活用している。また、ソファやその周辺は児童生徒たちの交流や憩いの場となっている。

図書室



図書室はふれあいホールにつながる仕切りのない空間で、図書が高学年のオープンスペースまでつながっており、校内に一体感と異学年間の交流を生み出している。

中庭の屋外ステージ



エントランスホールから続く屋外ステージでは、小中合同で行われる音楽祭の練習などを行い、児童生徒の表現力の育成に活用している。

コンピュータ室



ふれあいホール上部は仕切りのないコンピュータ教室で、学年の垣根を越えた自由な学習に活用している。

2. 小中一貫教育の取組の高度化に資する共同利用

特別教室

特別教室に関しては、小中各々の必要室を整理し、共同利用や他室との兼用の可能性を検討し、最小限となるように整備している。音楽教室や家庭教室を小中で共同利用しており、図工室と美術教室を兼用している。

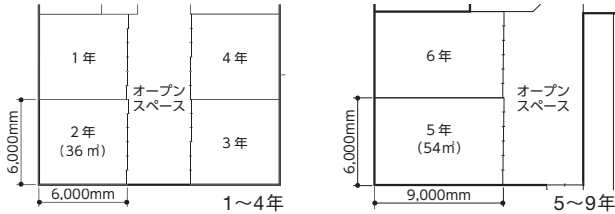


小中で共同利用している音楽室

3. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能

■ 普通教室と隣接するオープンスペース

普通教室に隣接したオープンスペースでは、前期（小学1～4年）や中期（小学5～6年と中学1年）の集会を頻繁に行っている。また、中学生の普通教室に隣接したオープンスペースには図書室の一部の図書を分散配置し、生徒の日常的な読書活動を促している。



■ 屋外オープンスペース（屋外デッキ）

校舎2階部分にある屋外のオープンスペースは屋根付きのウッドデッキを設けており、観察・実験など理科の授業活動に活用している。



4. 小中一貫した教育課程に対応した施設環境

■ 小中高一貫教育の推進



小中学校の校舎と高校の校舎をつなぐ渡り廊下



小中高合同で行われる運動会

平成20年より小中高一貫教育を本格実施しており、隣接する県立奈留高校とともに小中高一貫教育の在り方に関する実践研究を推進している。

小中高での合同行事として、毎年4月は歓迎遠足、9月は体育大会、10月のはかた・百人一首大会を実施している。また、英語・数学・音楽等の相互乗り入れ授業の実施のほか、「奈留・実践」という地域における体験活動などへの参加を通して、問題解決能力や社会性の向上を目指す合同の取組等、様々な交流・連携を図っている。

▶ 校長の視点から

ながお よしひろ
奈留小中学校 校長 長尾 能博

日本の西の果て五島列島の中央部に位置する奈留島は、漁業で栄えた潤いの島でした。また、一島一町である奈留町は古くから「教育の町」としても有名です。現在も学校教育に対する信頼と期待は大きく、学校と地域が一体となって子供たちを育てようとする教育風土が根付いています。島の中心に位置する小高い丘の上に建てられた校舎は島自慢のシンボルであり、また、遠くふるさとを思う卒業生へ希望と勇気の光を届ける灯台のようでもあります。この校舎で学んだ子供たちは迷わずいつでもふるさとへ戻ることができるでしょう。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較